大阪府

令和７年度技術資料

シロイチモジヨトウ
生態と防除対策







大阪府　環境農林水産部　農政室　推進課
病害虫防除グループ

シロイチモジヨトウとは

- ねぎ、しゅんぎく、キャベツ、なす、きゅうりなどの野菜類、きく、けいとうなどの花き類を加害する広食性の害虫です。
- 昭和50年代後半に鹿児島県や高知県のねぎで問題となり始め、その後、全国に拡散し大発生しました。一旦、平成の初め頃に減少しましたが、平成29年頃より西日本を中心に再び多発しています。

卵

- 卵は直径約0.4mmの球形で、数十～数百個からなる卵塊を数回に分けて、一頭当たり平均700～1000個産卵する。卵塊は黄白色～灰白色の短い毛で覆われている。

幼虫

- 側面に白線があり、老齢幼虫では30mm程度になる。夜間に食害する。体色は、若齢幼虫は淡緑色で、中齢以降になると淡緑色、緑褐色、暗褐色と変異に富む。密度が高いと体色が濃くなる。



短い毛で覆われた卵塊



側面に白線がある幼虫

サナギ

- 幼虫は５齢を経て土中でサナギになり、気温25.5℃では７日ほどで羽化する。

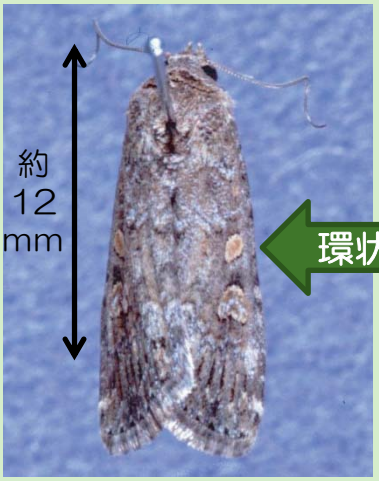


サナギ

（（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所提供）

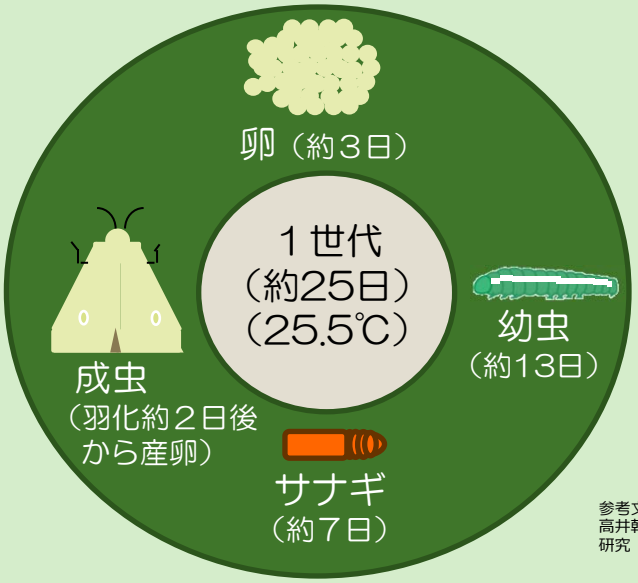
成虫

- 体長約12mm、開張は約30mm。前翅は灰褐色で黄褐色の環状紋がある。夜間に活動し、長距離移動する。昼間は葉裏や雑草地に潜む。



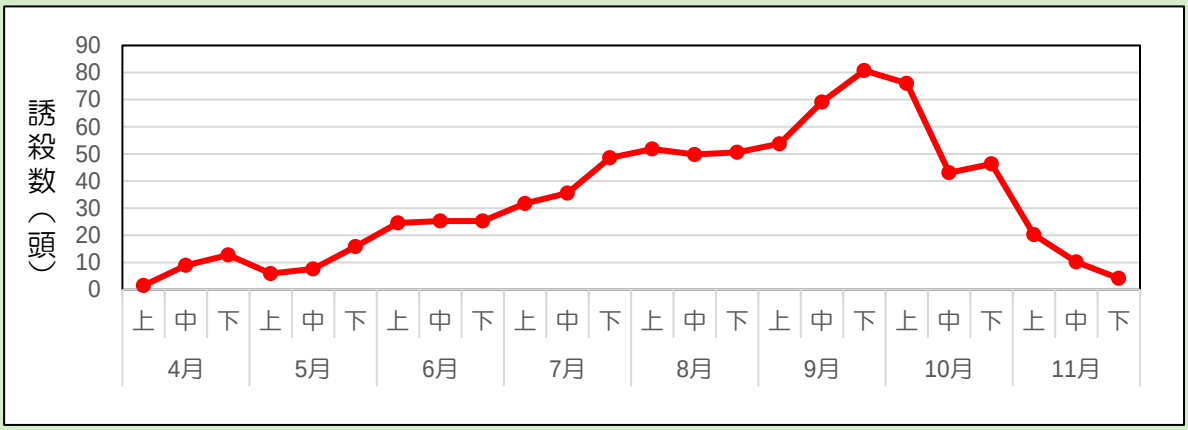
環状紋のある成虫

一般的な生活環



参考文献
高井幹夫（1988）シロイチモジヨトウの生態と防除に関する研究（１）（高知県農林技術研究所研究報告）

発生消長



フェロモントラップによるシロイチモジヨトウ雄成虫の誘殺消長
（大阪府羽曳野市、平成28年～令和７年の平均値）

- 成虫は４月上旬から発生し、５月下旬以降に増加し、９月下旬頃にピークを迎え、11月下旬まで発生する。
- 近年、発生時期の早まりや長期化が懸念されている。
- 年間の世代数は４～６世代。野外でも越冬しているとの報告がある。



幼虫によるねぎ被害



ねぎ葉身内の虫フン



ねぎ葉身内から出できた幼虫

防除対策

基本的な防除

□ほ場の見回りをこまめに行い、卵塊や分散前の幼虫は、見つけしだい葉ごと取り除く。
　ねぎでは、幼虫が葉身内に食入している場合があるので、注意して観察する。

□被害残さが発生源となるので、放置せず、すみやかに処分する。

侵入・産卵防止

□施設栽培では、開口部を４mm以下の目合いのネットで被覆する。

□露地栽培では、４mm以下の目合いのネット等でトンネルがけを行う。

□ほ場を見回り、卵塊や幼虫が付着している葉は、ほ場外へ持ち出し、処分する。

薬剤防除

□老齢幼虫になると薬剤の感受性は大幅に低下するので、中齢幼虫までに防除することが望ましい。

□近年、近隣府県で、薬剤殺虫効果の低い個体群が確認され問題になっている。
　今後の薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用を避ける。

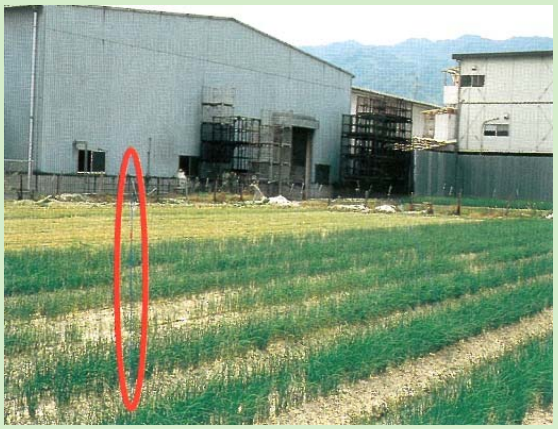
その他防除

□夜行性のため、夜間に黄色灯を点灯して、行動を抑制する。

□フェロモンディスペンサー（ヨトウコン-Sなど）を設置し、雄と雌の交信・交尾を妨げる。シロイチモジヨトウが低密度の時期から、広範囲（１～５ｈａ程度）で使用する。



点灯された黄色灯



フェロモンディスペンサーの設置



フェロモンディスペンサーの仕組み

問題になっている他のチョウ目害虫

ハスモンヨトウ

- 極めて広食性で野菜類やさといも、だいずを食害する。
- シロイチモジヨトウに比べ、比較的固い部位を好んで食害する。
- 卵は葉裏に、数十～数百個程度が塊状となっており、表面は黄土色の毛に覆われる。
- 幼虫の頭部のやや後方の２つの黒い紋（図の赤丸）が目立つ。
- 老齢幼虫では40mm程度になる。
- ９～10月に発生ピークを迎える。

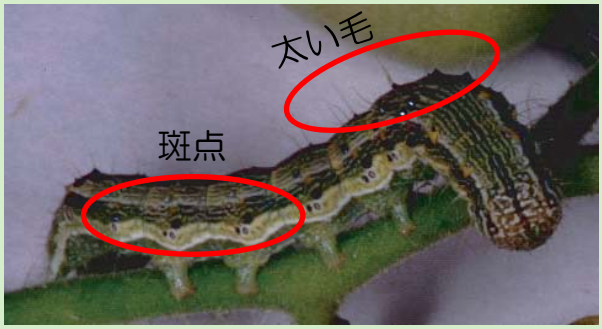


老齢幼虫



卵塊

オオタバコガ



老齢幼虫



卵

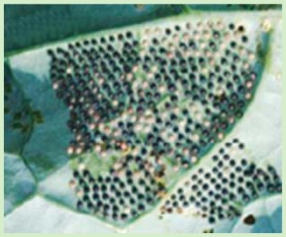
- 広範囲の作物を食害する。
- 花や新芽、果実を好み、果実に食入する。
- ヨトウムシ類と異なり、卵を１個ずつ産卵する。
- 幼虫の体に小さい斑点があり、そこから太い毛が生えている。
- 老齢幼虫では35～40mm程度になる。
- 年４～５回発生し、８～９月に発生ピークを迎える。

ヨトウガ

- 明治時代から重要害虫として知られており、全国に分布する。
- キャベツなど葉菜類を好んで食害する。
- 卵は葉裏に、数十～数百個程度が塊状となっている。直径約０.６mmのまんじゅう型で、側面に放射状の黒点がある。
- 若齢幼虫はシャクトリムシ状に歩き、成長するとイモムシ状に歩く。
- 老齢幼虫では体長50mm程度になる。
- 春と秋の年２回発生する。



老齢幼虫



卵塊

シロイチモジヨトウの防除薬剤

ねぎ

薬剤名	系統（ＩRAC）	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数
グレーシア乳剤	イソオキサゾリン系（３０）	2000～3000倍	収穫７日前まで	２回以内
ディアナＳＣ	スピノシン系（５）	2500～5000倍	収穫前日まで	2回以内
コテツフロアブル	ピロール系（１３）	2000倍	収穫７日前まで	２回以内
プレオフロアブル	ピリダリル（UN）	1000倍	収穫３日前まで	４回以内
ベネビアOD	ジアミド系（２８）	2000倍	収穫前日まで	３回以内

野菜類

薬剤名	系統（ＩRAC）	適用作物名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数
デルフィン顆粒水和剤	ＢＴ（１１Ａ）	野菜類（除トマト、ミニトマト）	1000倍	発生初期 但し、収穫前日まで	－
ゼンターリ顆粒水和剤	ＢＴ（１１Ａ）	野菜類（除キャベツ、はくさい）	1000倍	発生初期 但し、収穫前日まで	－

花き類・観葉植物

薬剤名	系統（ＩRAC）	適用害虫名	希釈倍数	本剤の使用回数
アファーム乳剤	アベルメクチン系・ミルベマイシン系（６）	ヨトウムシ類	1000倍	５回以内
オルトラン水和剤	有機リン系（１Ｂ）	ヨトウムシ類	1000倍	５回以内
ノーモルト乳剤	ベンゾイル尿素系（ＩGR脱皮阻害）（１５）	ヨトウムシ類	2000倍	２回以内

フェロモンディスペンサー

薬剤名	適用作物名	使用目的	使用量	使用時期
ヨトウコンーＳ	シロイチモジヨトウが加害する農作物	交尾阻害	露地：20～100m（20cmチューブの場合は100～500本）/10a 施設：100～140m（20cmチューブの場合は500～700本）/10a	シロイチモジヨトウの発生初期～終期

登録は令和８年２月12日現在

問い合わせ先

環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ
〒583-0862　羽曳野市尺度442
直通　072-957-0520　FAX　072-956-8711

環境農林水産部農政室推進課地産地消推進グループ
〒559-8555　大阪市住之江区南港北1-14-16　咲洲庁舎22階
代表　06-6941-0351（内線6744）　FAX　06-6614-0913

北部農と緑の総合事務所　農の普及課
〒567-0034　茨木市中穂積1-3-43 三島府民Cビル内
代表　072-627-1121　FAX　072-623-4321

中部農と緑の総合事務所　農の普及課
〒581-0005　八尾市荘内町2-1-36 中河内府民Cビル内
代表　072-994-1515　FAX　072-991-8281

南河内農と緑の総合事務所　農の普及課
〒584-0031　富田林市寿町2-6-1 南河内府民Cビル内
代表　0721-25-1131　FAX　0721-25-0425

泉州農と緑の総合事務所　農の普及課
〒596-0076　岸和田市野田町3-13-2 泉南府民Cビル内
代表　072-439-3601　FAX　072-438-2069

大阪府
環境農林水産部 農政室 推進課 病害虫防除グループ
〒５８３－０８６２　羽曳野市尺度４４２
TEL　０７２－９５７－０５２０　FAX　０７２－９５６－８７１１
Email　byogaichu@sbox.pref.osaka.lg.jp

監修　：　（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
令和８年３月発行